

統合失調症

1 症状論

どんな症状か？

2 原因論

どんなメカニズムで？

3 治療論

どのように治療するか？

ビデオ 妄想型の事例

1) 主観的症狀

テレパシーで殺すと言ってくる(幻聴)、
頭の中に空気(体感幻覚)、母に操られる(させられ体験)、自分の体験が他人にわかられる(思考伝播)、別の世界を体験

2) 客観的症狀

混乱、興奮(「疲れた、疲れた」とサイン)

3) 面接者の態度

聞き役に回る、説得せず

ビデオ 解体型の事例

1) 主観的症狀

不明確、小人が見える(幻視?)

2) 客観的症狀

質問に対してまともな答えがない、支離滅裂(連合弛緩)

3) 面接者の態度

聞き役に回る(ややイライラ)



統合失調症の症状

陽性症状

健常者にはみられない異常な症状

≡ 急性症状

≡ 主観症状

幻覚

妄想

自我障害

陰性症状

健常者の機能が脱落した症状

≡ 慢性症状

≡ 客観症状

連合弛緩

自閉

感情平板化

アンビヴァレンス⁴

統合失調症の2症候群仮説

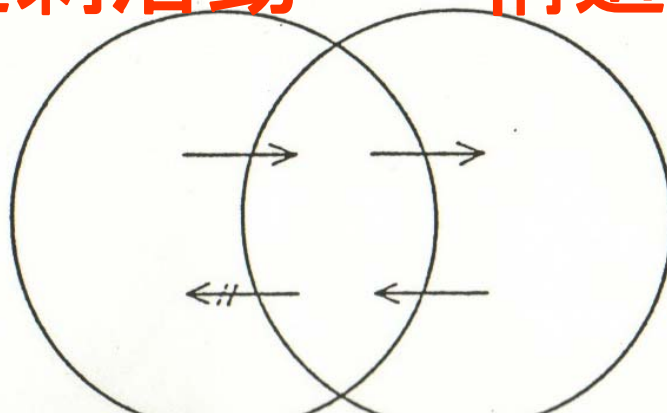
I 型

II 型

特徴的
症状
多い
病型
精神病薬
症状の経過
知能障害
病理過程
(推定)

陽性症状
急性期
良く反応
可逆的
なし
ドーパミン系
の過剰活動

陰性症状
慢性期
反応しにくい
非可逆的
時にある
細胞減少と
構造的変化



感覚モダリティからみた幻覚の分類

幻聴

要素性幻聴

(言語でない音。例:ベル音)

複雑幻聴(音楽など)

言語幻聴

非対話性幻聴

対話性幻聴

幻視

幻臭

幻味

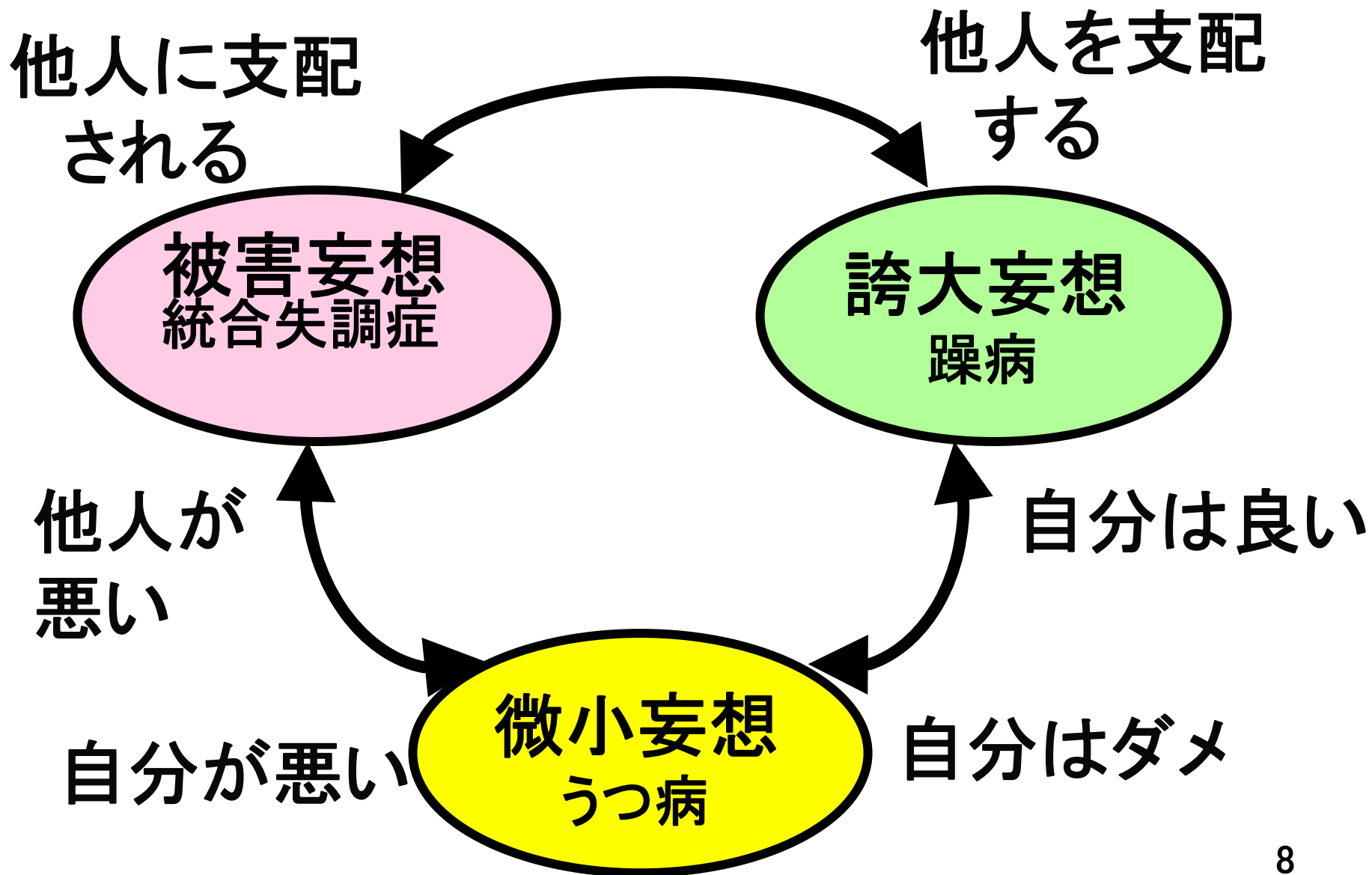
体感幻覚

自分の噂話をする声
自分に話しかける声

DSM-IVの定義

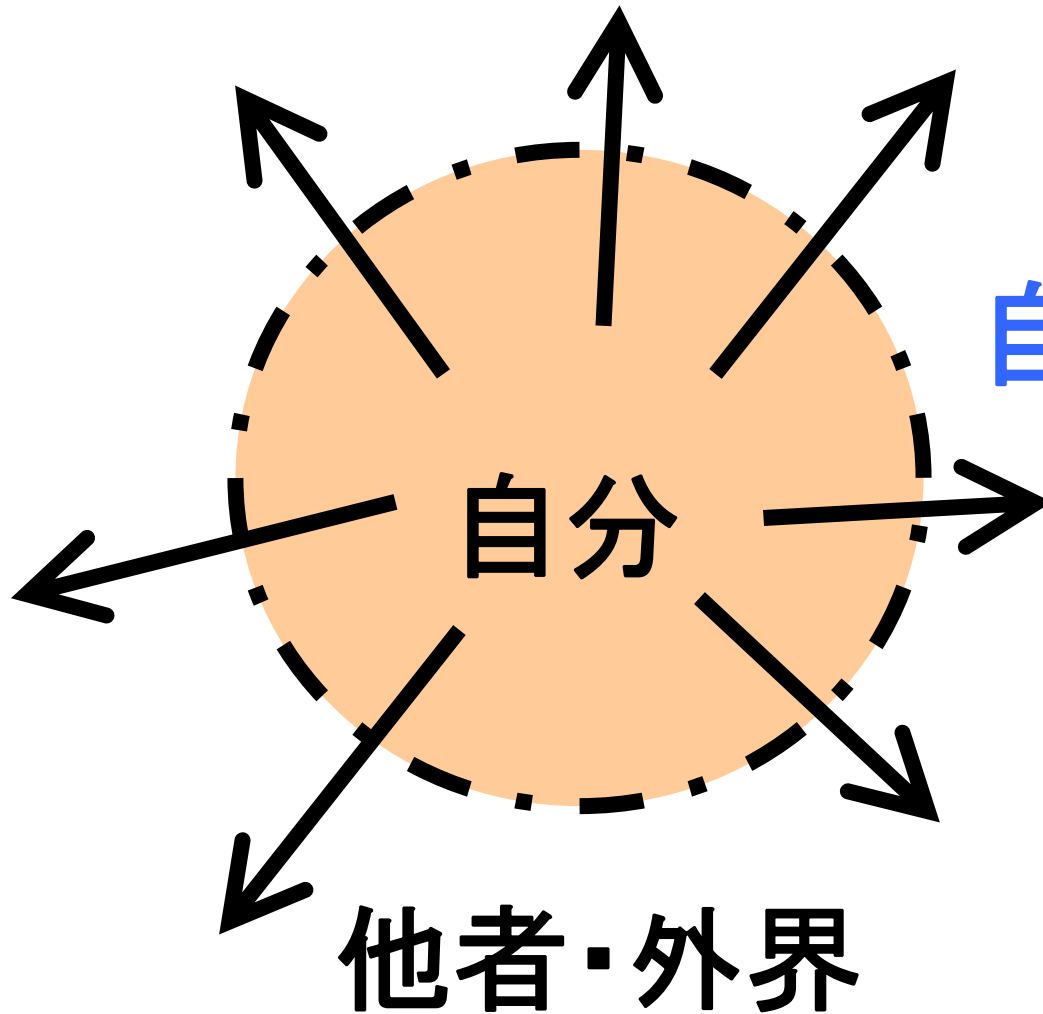
妄想：外的現実に対する間違っ
た推論に基づく誤った確信（**内
容の不可能性**）。矛盾に対して
反論の余地のない明らかな証
明や証拠があるにもかかわらず
（**訂正不可能性**），強固に維持さ
れるもの（**確信性**）

妄想の三大主題の関係



自我障害 (1)

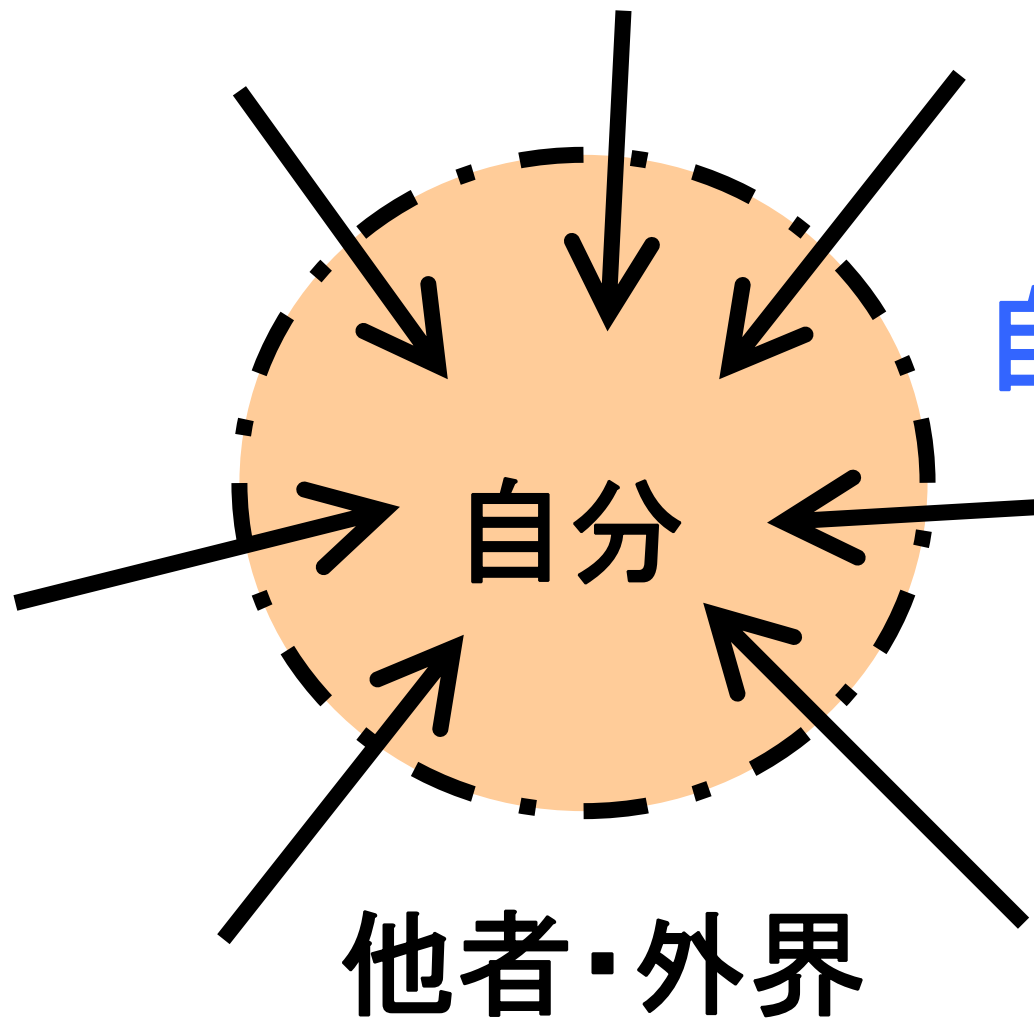
自我漏洩体験 = つつぬけ体験



何も言わないのに、自分の考えていることがまわりの人に知れ渡ってしまう。学校や会社の人々が、自分の秘密を知っている。見知らぬ人が自分の考えを見抜いている

自我障害（2）

作為体験＝させられ体験



自他境界

誰かが考えを吹き込んでくる。誰かにいやなことをさせられる。操られる。考えを奪われる。自分の行為にいちいち口出しされる

連合弛緩

話の文脈のまとまりが悪いこと。「
考えがまとまらない，余計な考えが
浮かんでくる」

滅裂思考（思考内容がばらばらで、
何を言っているのかわからない）



統合失調症(精神分裂病)の由来

1911年に、ブロイラーが命名
個々の機能は正常だが、それをまとめている
連合機能が障害。⇒個々の機能が勝手に
機能して、まとまりがなくなる

⇒ **Schizo-phrenia** 「精神分裂病」と訳

⇒ 2002年から訳語を「**統合失調症**」に

連合機能 ≡ 人格、自我機能

感覚

思考

記憶

感情

運動

自閉

自分の内面の主観的世界に閉じこもり、外の現実への関心を失う。人に会うのを避け、職業や学業に関心を失う。家に引きこもったり、生活がだらしなくなる。たとえ社会的に活動していても、その活動は他人との心の交流を持たない一人よがりのもので、現実との生きた接触を持たない。

子どもの自閉症は違う障害

感情の平板化

自然な喜怒哀楽の感情に乏しくなり、
外界の出来事や自分の状態に無
関心になる。

意欲が低下して無為の状態におちこ
み、日常生活や周囲の状況に無関
心になる



DSM-IVの統合失調症の診断基準

A. 特徴的症狀：以下のうち2つ以上がある。
各々は、1ヶ月の間ほとんどいつもある。

1) 妄想

2) 幻覚

3) 解体した会話（頻繁な脱線や滅裂等）

4) 緊張病性の行動

5) 陰性症状（感情の平板化、思考の貧困、意欲の欠如）

B. 社会的・職業的機能の低下：仕事、対人関係、自己管理の機能が著しく低下

C. 期間：6ヶ月以上持続

統合失調症の素因ストレス・モデル

ストレス

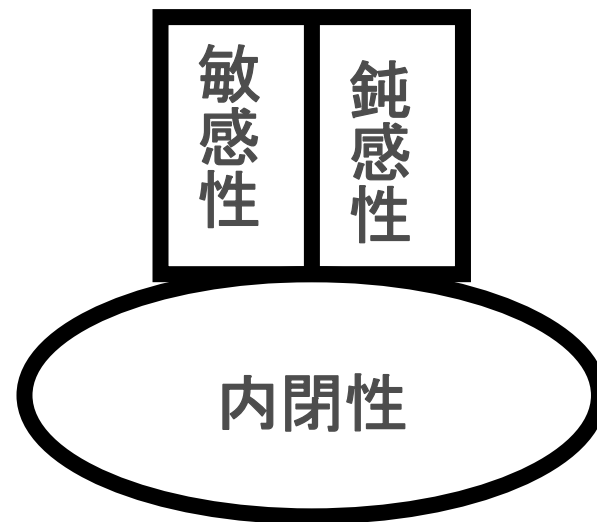
(誘因となる環境)
ネガティブなライフイベント
家族の感情表出(EE)

統合失調症の
発症

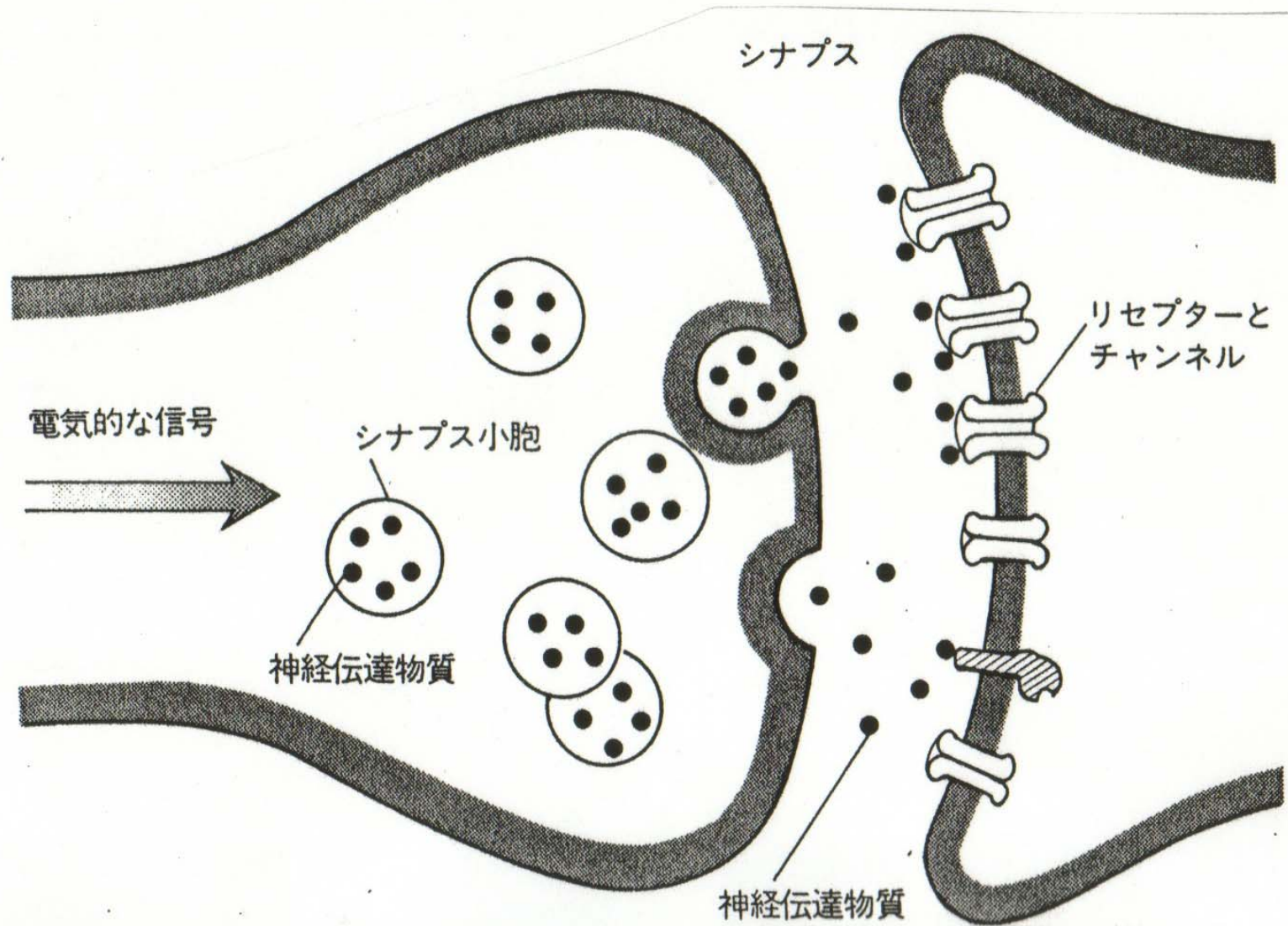
素因 Vulnerability

- (なりやすい素質)
- ①性格(内閉気質)
 - ②認知特性
 - ③生化学的素質

分裂気質	
基本特徴	内閉性(非社会的、静か、まじめ、変人)
感性 と 気分	敏感性(臆病、恥ずかしがり、感じやすい、 神経質、興奮しやすい、自然・読書好き) 鈍感性(従順、気立てよし、正直、落ち着き)
社会的 態度	自分の内に引きこもる、 自己と世界を対立させる、 周囲から身を引く、冷ややか
正常人 なら…	感覚の繊細な人、孤独な理想家、 冷たい支配家、利己的、無味乾燥で鈍感
運動性	刺激と反応がしっかりと結びつかない



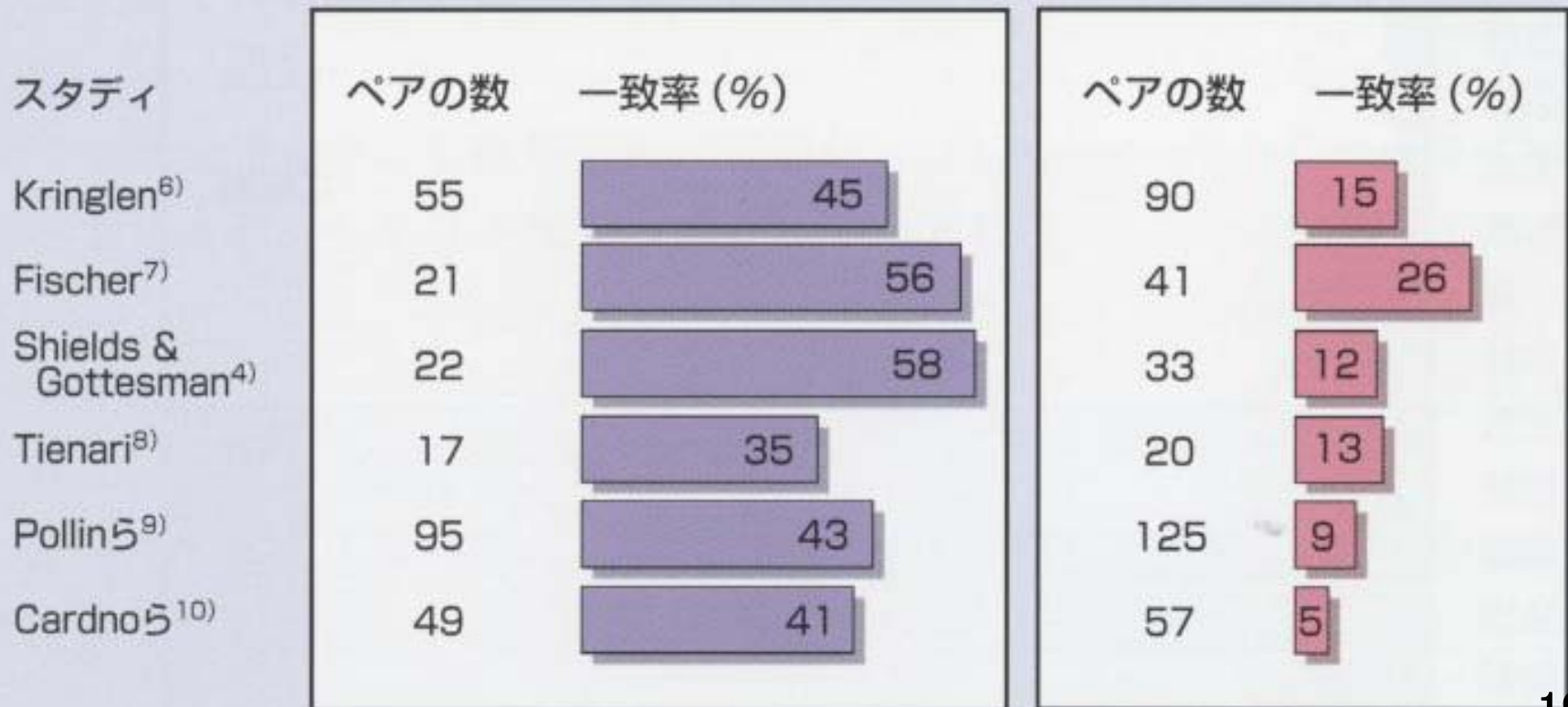
By Kretchmer



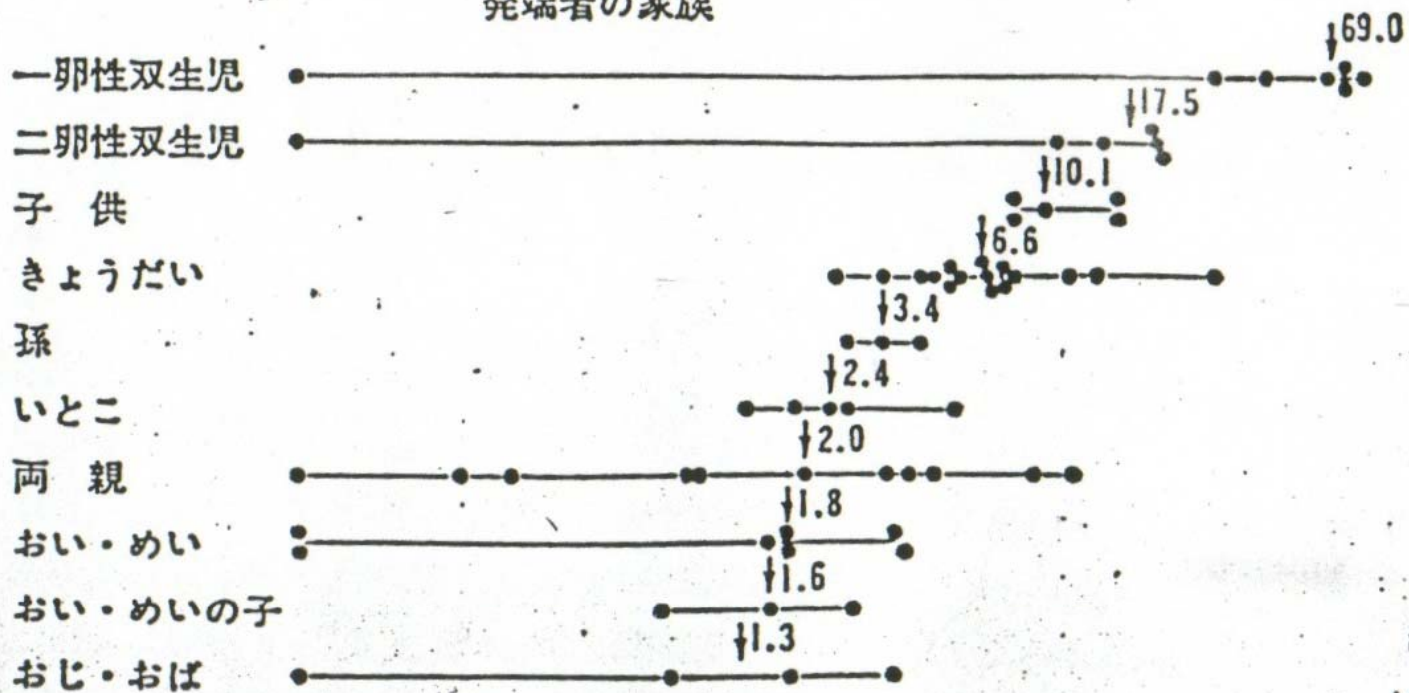
統合失調症と遺伝の関連 — 双生児研究の知見 —

一卵性双生児 (MZ)

二卵性双生児 (DZ)



発端者の家族



一般集団(一斉調査)

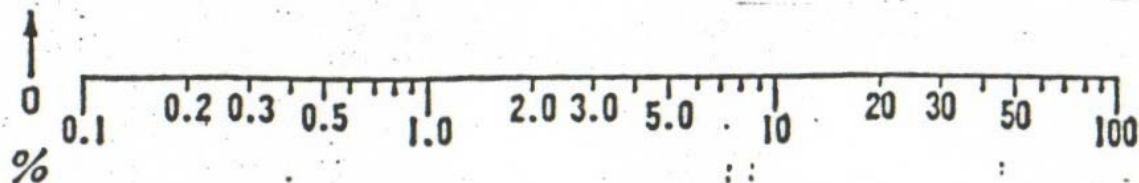


図1 精神分裂病の発病危険率 (↓は中位数)
(井上英二『精神神経学雑誌』71巻, 1969)

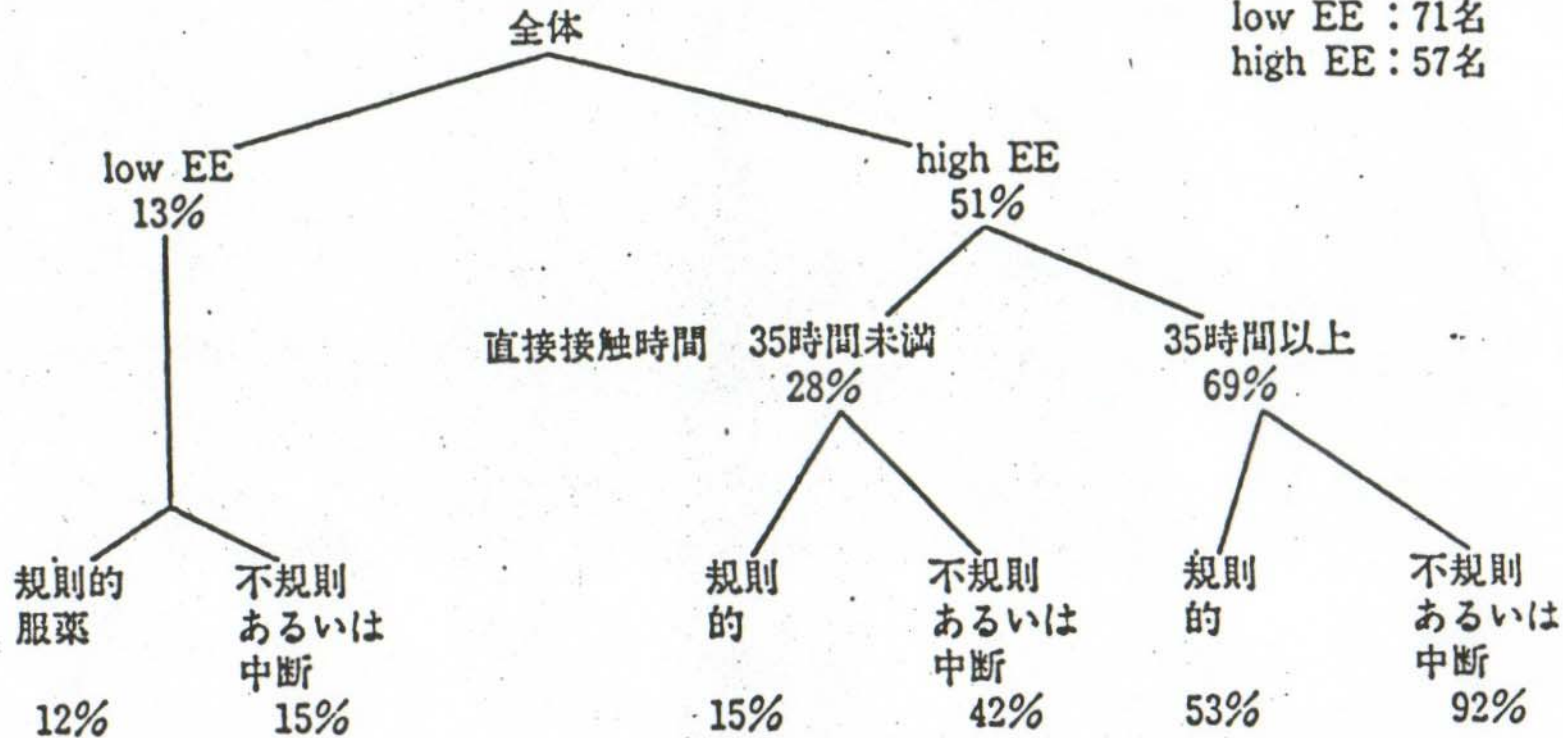
●精神分裂病の再発と家族の感情表出

感情表出 EE : Expressed Emotion

(①批判的言動, ②敵意, ③感情的巻き込まれ)

これらが多い家族の患者は, 再発しやすい。

low EE : 71名
high EE : 57名



分裂病の9カ月後の再発率 (Vaughn & Leff³⁶⁾)

統合失調症の治療

アメリカ精神医学会治療ガイドライン

- ①**生物学的治療**：薬物療法、電気けいれん療法など
- ②**心理的介入**：認知行動療法，家族介入，集団療法，早期介入プログラムなど
- ③**社会的・地域的介入**：ケースマネジメント，コミュニティ療法，生活技能訓練，職業リハビリテーション，自助グループなど

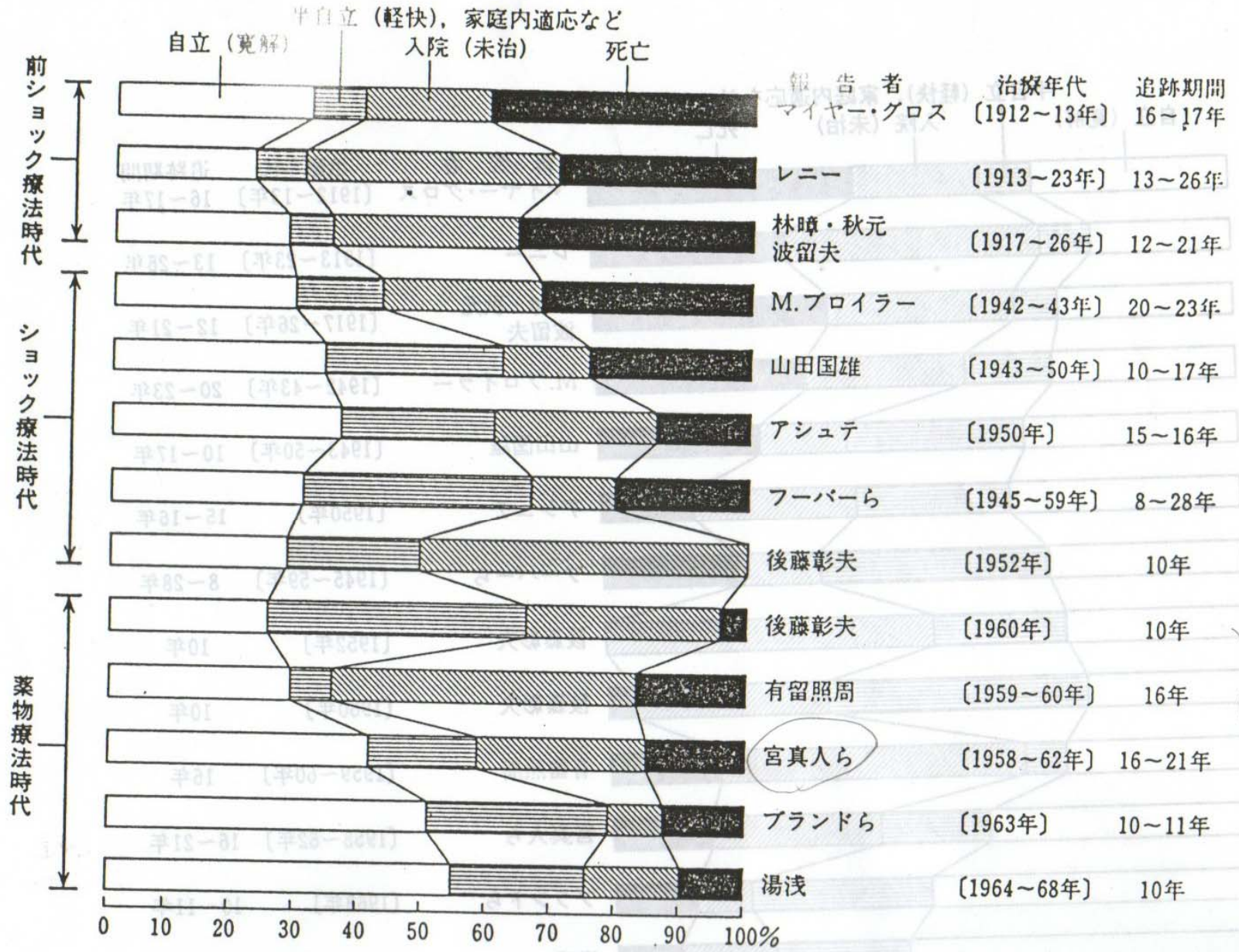


図 14.3 治療方法による治療効果の変化 (湯浅, 1986) 「人格心理学への招待」